



りえぞん

Liaison
vol.
64

Contents

令和8年9月

- 奈良医療センターと「さくら」—— P1
- 市民公開講座を開催しました。—— P3
- 部門紹介「栄養管理室」—— P2
- 「てんかん勉強会」を開催しました。—— P3

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院づくりを目指します。



夏の恐竜ふれあい体験（療育訓練室にて）
鳴いて動く大迫力の恐竜が遊びに来てくれました！

令和8年度 病院目標

神経・筋疾患、脳疾患、重症心身障害、呼吸器を主たる機能とした
「面倒見のいい病院」の機能を高める

医療関係者の 皆様へ



「りえぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。

奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで名付けました。

〈編集・発行〉

独立行政法人 国立病院機構 奈良医療センター
National Hospital Organization Nara Medical Center



奈良医療センターと



統括診療部長

澤井 康子 

当院は、「呼吸器と神経疾患の診療を中心とした面倒見のいい病院を目指して」を掲げています。それ以外にも、少し違った面からみた当院について、紹介させていただこうと思います。

当院の職員に、「この病院の素敵なのところは？」と尋ねると、そのひとつに「さくら」があると思います。ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、春には、大池（勝間田池）・薬師寺・若草山を背景にみごとに病院の庭のさくらが咲いています。薬師寺の創建は8世紀頃、大池については万葉集に勝間田池の和歌があることから、8世紀頃にはともに存在していたものと思われます。いにしえの時代から、多くの人々が、あの薬師寺の東塔と大池を眺め、病氣平癒の祈りをささげていたであろう地に当院が建設されたという解釈をすると、なんだかとても壮大で深遠なものを感じます。

さくらの話に戻りますが、多くの入院外来患者様・職員も、このさくらが咲く少し前はどきどきしてしまいます。咲き始めると本当にうれしくて、満開になるとその下を何度も通って、そして散るところには「ああ、もう終わった、一年、全部…」といった感じになるのでしょうか。職員のさくらを愛する気持ちは熱く、約13年前に新築された病棟は、職員投票の結果「さくら病棟」と名付けられ、今も多くの人々の命を守っています。また、会議や講演会等で多くの方々をお招きする場所も「さくら講堂」と名付けられています。病院パンフレットにも、「是非、さくらを入れて！」とリクエストがありました。

病院のさくらは、時として、人々に生きる目標を与えてくれることもあります。「さくらが咲くところに、散歩ができるようにがんばろう」とか。また、さくらは、静かに思い出に寄り添ってくれることもあります。闘病の末、亡くなられた故人との思いを抱えて、ひっそりさくらの木に会いに来られる方もおられます。個人的には、私は春だけでなく、夏も秋も冬も、この病院のさくらの庭の風景が好きで、そして、その他にもあまり整いすぎでない野性味あふれるこの病院の雰囲気は好きであります。病院の裏の方にいくと、「ここは昭和（時代）か？」というようなかなりレトロな場所があったり、なぜか竹林があったり、この不思議な雰囲気は、時にほっとさせてくれ、それが当院のやさしい魅力であるのかもしれません。

すべてのものに一生があるように、さくらにも一生があるようです。一部が病気になったり、枯れてしまうさくら。年余にわたり、いろんな人や動物・植物を静かにみまもり、やがて土にかえっていくのですね。最近、2本ほどですが、若い苗木が植えられているのを見かけました。あと10年くらいで、少し立派になるのだらうと思います。私たち奈良医療センター職員一同、このさくらのもとでさくらのように、多くの命をはぐくみ守り、そして、最期が来たときには無事に自然にお還しする、命を支える仕事にまい進したいと思います。

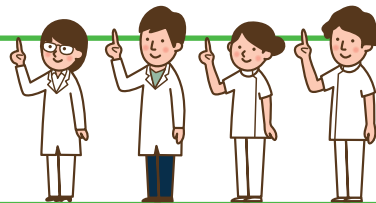
最後に、昨年秋の紅葉の時期の病院のさくらの庭の写真を掲載しておきます。患者様、関係者の皆様、心がつかれたときには、ここに腰かけてみてください。さくらの葉ってこんなにきれいなんだ、と感じると思います。





部門紹介

✓ 栄養管理室



奈良医療センターの栄養管理室では美味しく安全なお食事を提供しております。
さらに栄養状態の維持、改善を迅速に行うことができるように病棟担当制を導入しており、
入院生活だけでなく退院後もより良い生活を送るために栄養面からのサポートを行っております。

私たちが実際行っている
ことをご紹介します。

美味しく安全なお食事の献立を考えて提供しています。

行事食

お正月、節分、七夕、クリスマスなど行事や季節に合わせた食事を提供。

選択食

お食事に制限がない方（一般食）に主菜を2種類から選んでいただき、好きなメニューを提供。

ドック食

人間ドックを受けられた方に管理栄養士が考案したお食事を提供。



七夕

クリスマス



一般食

選択食



嚥下食

咀嚼、嚥下の状態に合わせた食事を提供。

※当院の嚥下食は日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2021に準じて食事形態を調整した食事内容となっております。

栄養状態に合わせて主治医の指示のもと
栄養内容の調整または指導を行います。



	嚥下食1	嚥下食2-1	嚥下食2-2	嚥下食3	嚥下食4
形態					
説明	均質で、付着性・凝集性・硬さ・離水に配慮したゼリー・プリン・ムース状のもの。	ミキサー・ピューレ・ペースト食などで、べたつかず、まとまりやすいもので不均質なものを含む。スプーンですくって食べることが可能なもの。	ミキサー・ピューレ・ペースト食などで、べたつかず、まとまりやすいもので不均質なものを含む。スプーンですくって食べることが可能なもの。	形はあるが、押しつぶし易。食塊形成や移送が容易。咽頭でばらけず嚥下しやすいように配慮されたもの。多量の離水がない。	硬さ・ばらけやすさ・貼りつきやすさなどのないもの。横やスプーンで切れるやわらかさ。大きいおかずは一口カットする。
基本の主食	なし（希望があれば付加可能）	粥ゼリー	粥ゼリー	全粥	全粥
エネルギー	685kcal	1350kcal	1350kcal	1350kcal	1450kcal
たんぱく質	25g	60g	60g	60g	60g
脂質	24g	35g	35g	35g	40g
炭水化物	95g	200g	200g	200g	210g
塩分	2g	7g	7g	7g	7g

個人栄養指導

入院中もしくは外来に通院されている方を対象に食品の選び方や調理方法などを、患者さまの生活習慣に合わせた内容でご提案をさせていただきます。

退院後訪問栄養食事指導

今年度より退院後も自宅や管理栄養士不在の施設へ栄養指導を行っております。

指導対象疾患 糖尿病・心疾患・腎疾患・がん・食物アレルギーなどの疾病
嚥下機能の低下や低栄養と診断された方

※嚥下造影検査結果で嚥下状態を評価した上で指導をすることもあります。

チーム医療

多職種と協力して栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チームや摂食・嚥下チーム、病棟でのカンファレンスを行い栄養内容の検討、情報共有を行っております。

今後も安全で美味しい食事の提供、病態に合わせた栄養管理に努めてまいります。
よろしくお願いいたします。



ニュース・トピックス

地域の皆さまに呼吸器疾患を
身近に知っていただくため、

市民公開講座を開催しました。

6月28日、当院主催の市民公開講座を、近鉄大和西大寺駅すぐの奈良商工会議所で開催しました。当日は多くの皆さまにご参加いただき、呼吸器の病気や睡眠に関する身近な症状について、専門医が分かりやすくお話ししました。

講座では、玉置副院長による「いま増えている肺MAC症」、板東呼吸器科医長による「その咳・その息切れ、肺からのサインかもしれません」、田中睡眠障害内科医長による「あなたの眠りは大丈夫?～忍び寄る睡眠時無呼吸症候群～」の3講演を行いました。



「いま増えている肺MAC症について」

奈良医療センター 副院長 玉置 伸二



「その咳・その息切れ、
“肺からのサイン”かもしれません」
～その原因と対処法について分かりやすく解説します～

奈良医療センター 呼吸器科医長 板東 千昌



「あなたの眠りは大丈夫?」
～忍び寄る睡眠時無呼吸症候群～

奈良医療センター 内科医師 田中 小百合

長引く咳や息切れ、眠っている間のいびきや無呼吸など、日常生活の中で気づきやすい症状をきっかけに、ご自身やご家族の健康を見直していただく機会となりました。

参加された皆さまからは、「病気のことを分かりやすく知ることができて良かった」「次回も参加したい」といったお声を多くいただきました。当院では、地域の皆さまが安心して相談できる医療機関を目指し、呼吸器疾患をはじめ、身近な健康課題について分かりやすく情報発信を続けてまいります。

長引く咳、息切れ、睡眠中のいびきや無呼吸など、気になる症状がある方は、どうぞお気軽に当院へご相談ください。多数のご参加をいただき、誠にありがとうございました。



学校関係者向け

「てんかん勉強会」を開催しました。

令和8年8月20日(木)、当院において、学校関係者の皆さまを対象とした「てんかん勉強会」を開催し、82名もの方にご参加いただき、会場は熱気にあふれました。

当日のプログラムと講義内容

講義「てんかんの基礎知識と外科治療」(てんかんセンター長 田村 健太郎)、「知っておきたい! てんかん発作時の対応」(統括診療部長 澤井 康子)に続き、グループワークと質疑応答を行いました。

グループワークでは、てんかん発作重積の際に使用する薬剤の形状見本と人形を用いて、実際の投与を体験していただき、現場で迷いやすい点を一緒に確認しました。参加者の皆さまからは自発的に次々と質問の手が上がり、講師の医師との間で活発なやりとりが続く、たいへん盛り上がった勉強会となりました。てんかん勉強会は、「来年度もぜひ開催してほしい」というご要望も数多く寄せられております。今後もこうした活動をとおり、地域の皆さまとともに、てんかん患者・ご家族の生活を支えてまいります。



▲プログラム・スピアの実演

当日の様子



▲講義の様子